か

61

たのでした。

外国人教師をとおした国際交流

多彩な外国 **【人教師** 群像

人教

1

外国 語学指導 総合言語センター、 人教師とい の外国 . うと、 師

何といっても、

語学の教師

が数多く招

か n

てい

・ます。

四六 指導を担当する多数の外国人教師が活躍しています。 ツ語学科三名、 れらのなかには、 年四月には、 総合言語セ フランス語学科一名、 ンタ 学生指導に励むかたわら、 英語部門に二名、 ĺ その前身の語学センター が発足した一九七九 そして中国語学科に一名が、 ドイツ語部門三名、 (昭和 研究の成果をまとめて学位を取得した方たちも には、 五四) 語学センターが発足した一九七一 当然のことながら、 年 四 フランス語部門 月には、 それぞれ在任しています。 英語学科に三名、 発足当初から、 一名が 招 か n 7 昭 語学 61 Ż ま 和

外人教陶招聘をめぐる企業部の 月六日の名大文学部。戦後初の 硬に主張した。昭和二十六年六 破棄せよ」ー。学生だちは、強 より向けよ」「自主性のない招 一談会は、これを承認した教育 への予算を、学 唐は「米人教師 日、教育会議に の激しい次上 部全体の光災に 自治会の反対理 通告された学生 め続けた。翌七 けで、もめにも 会議への学生前

が





結んで、評議会と、教官会議にらった。「文学部が起こした人

部長会は、紡融会の開館をため

ところか、学長が招集した学

して追認することはできない

「外人教師問題を、学部人事と

THE PERSON NAMED AND ADDRESS OF THE PERSON NAMED AND ADDRESS O

解約さけ善処を

事後承認を得たのである。 ギナルド・ラニア博士と契約を の教官会議にいきさつを報告。

専問題に、大学が手をふれるの

きざれの策で、問題解決をはか

はおかしいしというわけであ

助手会も破棄へ

学生自治会のほか、助手会かる。ここにいたって、工順教授は

翌一十二年」月、モリオ・ア

外人教師の招聘問題にゆれ (34)

ア博士の ミリオ・アギナルド・ラニ た当時の名大文学部のとエ

> そかに、辞任を決敵したのだ。 ることを教授会に提案した。ひ 手続き上の誤りを認め、自らの

責任でラニア博士に解約を申出

ていた。まもなく、ラニア博士 自治会連合会による。外人教師 った。キャンパスでは、金髪生 の要望を見合わせるという苦し と決議。半面、協議会への再度

招聘反対。のデモかくの返ざれ

再び招集された協議会は、つい

のである。

イデオ ロギー や感情 もからん はしだいに、賢任問題に発展。 で、対立するばかり。裸夜にな に前学部長と学長の責任を認め

まま十一日の明け方を迎えるハーをくだしたのだった。 再開したものの、見逝しのない「け、文学部が善処すべきだと断 っていったん中断。翌十日午前 た。か、国際僧義上解約をさ

後年の協説にはいった。論説 官会設は、六月九日あわてて著 らも"契約破弊"を迫られた歌

もめにもめた文学部 文学部では、この間中村栄率

学生から激しい突上げ

八十五万円が特別支出される恩 目夜。この内容は「外人教師間 て、急ぎ教官会議を弱く。ここ 教師の給与のほか、宿舎補修費 は、三度目の会談になった十一 治郎・教授が学部長代理となっ からなかった工藤・前学部長には、GIEの権力介入を招き、 やっと 窓見が まとまったの・学部長が投射で倒れ、服部英 題の責任は、すべて教授会にはで、ラニア博士の着任をはばめ

との受訝に話づき、国立大学七・工脈好美教授(英文学)だっ。学生自治会と助手会に通告。こ なジレンマに、迷いに迷った。 ある。請師、助教授はもちろ大学全体が傷つくかもしれな 学生に弾圧がくるだろう。楔刻 は、学生の反対演動が爆発し、 い。だが、この人軍を帰除すれ 繰返されたデモ 年の歩み) 点とを見のかすことはできな って、軌道にのることになった 大きくたかまり…学部の単質が い…」(名屋大学文学等一十 創設期の認知(とん)を突き砂

- 文中级称略-

「東山集結」 【次回は十二月十五日付

めて真面した自治の危機を、克・省から提案された。GIE(米・するという内容。もちろん、招・る一方、九月にはいって文学部・備を学長に申入れる。

十一校に米人教師五十人を招駒

た。土藤教授は、手続きを辿め を申出たのは当時の文学部長、

の人班返上のための協議会の開

己十五百、教官会はは

占領軍最高司令部情報教育局)

ために、せひ…」」一。 勝沼新蔵

「英文学の調査を光実させる

火つきである。

時希望校には月額三万五千円の

・学長がこの件を学部提会に戦

悟したとき、即座に招助の希望 はない」とするものだった。教

宮会議は、この決定を直ちに、 ん、単後承認した教授にも遺任

吹流れたさ中、新側名大が初 の歩みには、レッドパーシか

四月、昭立大学及会議で、文部 明に記録している。

外人教師の招聘は、二十五年

意味の地大さと、不安を感じと っかけは、過敏な学生活動家

たから。「名大文学第二十年 代、米人教師の就任に、政治的 を二分していた時代。騒ぎのき 脳和。か、全面脳和。かが倒能

関の対日諸和をめぐって『単物

前年、削鮮戦争がほっ発。米

新制名大の危機

時は、認めない」などだった。

…平時なら知(ゆる)すべき到 して、学部自治に対する関心が しかし、この写件の技術をとお 月末、一人名大を去っていった るように、工廠教授は、翌年三 て、問題は終わった。入れかわ は着任。大学は夏休みにはいっ ならざるをえなかった。そこに は、小さな過ちも大きな問題に の対日政策が…過敏なほど強く 政治的開勢が疑迫し、アメリカ 事件の後味の悪さがあった。… 激識されていた状況のもとで ちであった。…納和をめぐって 学部自治高まる 一外人教師招聘手続の跟りけ

「外国人教師問題」 文学部の を伝える記事 (『毎日新聞』1970年12月8日)

文学部 0 外国 人教 韴 間 題

語学の教 師といえば、 文学部も早くから外国人教師を招い ています。 英文学、 仏文学、

学などを担当する外国人教師が続々着任しています。

£ī. ○ 文学部の外国 (昭 和二五 人教師というと、 年 四 一月に、 各大学にアメリカ人教師 ζ) わ ゆる 外国 [人教師] が紹 間 題 へいをという文部省の提案をうけて、 が思 7 、だされ 、ます。 戦 後 0)

二九

戦後最 初 の外 国人 、教師です。文部省の提案は、 月額三万五〇〇〇円の給与と宿舎補: 修費 八五万

翌年一月、

E・A・ラニア博士と契約が結ばれました。

円 の特別支出という恩典つきでした。

英文学の外国人教師を招くことになり、

が 0 ました。 的 確立が模索された出来事でありました。「ラニア事件」と名づけた報道もありました。 情 け れども、これが学部全体をゆるがす騒動にまで発展したのでした。 勢が緊迫し、 着任という形で決着をみるまでに、 過 激なほどつよく意識されていた状況」であったなか、 アメリカ の対日 政策が国 学部自治へ の運 命に重大なか の関心が高 か にまり、 「手続 わ りをもってい 「講和をめぐって政治 民主的な原則 の誤り」 が 間 ること や方式 題 化し

名古屋 高等商業学校 0 外 国 人教師

戦前にさかのぼっても、 幾人もの外国人教師が活躍してい 、ます。



(『わが友 若き旅人よ、 八高八十年祭記念誌』1988、 所収)

諸氏です。

イツ)、それに商業学・英語のG・C・アレン

(英国

0

国 が

とA・P・マッケンジ

1

(英国)、

フラン

ス

語

赴

任しています。

英

語担

当のA・E・ニコルズ

(英

二年目の一九二一(大正一〇)年に、五名の外国

|人教師

開

校

「界にはばたく人材の育成を目ざしていただけに、

本学の包括学校の一つである名古屋高等商業学校では

ブーヅ

(ロシア)、ドイツ語

・商業地理のA・ヨー

ン の

F Ą

ます。 望を集め斎しく生徒の慕ふ所となれり」 三四三 じころ、 む会話・ 一一九四○)であって、 このうち、 体操担当のW・R・パークヒル 招か 商英・タイプ等の指導に余念なく、 (昭 ニコルズはもっとも長い在任者 和 れ てい 七 ・ます。 かれは <u>/</u> 戦時色が 年 には、 「軽妙なるユーモアに富 (アメリカ) 強くなった一九 ۴ と伝えら イツ語と支那 校内 $\widehat{}$ 九二 Ŕ 外の n 7 語 四 同

61

を担当する外国

人教師が

名ずつ招

かれています。

名

生徒たちがそれについて合唱した」ということです。

『伊

吹おろしの雪消えて

第八高等学

(大正一二年ころ)、

その指導に熱心でした。

古 屋 高等商 業学 校 覧 至自 昭昭和 十九八年 によると、 同校 に は 右 の諸氏を含めてのべ一 七名 0 外 国

◆第八高等学校の外国人教師

教

師

が

雇

わ

n

ラ

77

ました。

導」 運 一 一) 年 |動競技師範を委嘱されていました。右のパークヒルと同一人と思われます。 これも本学の包 で知られ から二年間 Ė 77 ま |括学校である第八高等学校の場合は、 らす。 在籍し、 同 じアメリカ人教師ジ 「各種の近代スポーツの導入」 \exists ンソンは、 体操科にW·R·パ と「アメリカ直 同 校に バ レ Ì ボ 1 輸 Ì ゥ 一九二二 入 ル が のスポ ヒ ル 入っ が 招 1 た当初 (大正 · ツ 指 か n

したドイツ語教師のR・H・ハミッチは、 満 明 第八高等学校の外国人教師といえば、ドイツ人教師A・ハ 治 のどに 気分転 韓ところどころ』 四二) 年から一九二〇 (大正九) 換とい 自 信 が うわけで、「テキストを景気よくとじて、 あ るとみえて、 のドイツ語訳がある」 「自慢のテナ 生徒たちがドイツ語の難 年まで在職し、 という教師でした。 一で『ロ 「日本文学 1 音楽 ーンが レ ラ Ź の 解なテキストにあきてくる の造詣が 時 九三 知られてい をう 間にくり 四 É が ζ) 昭 深く、 ・ます。 は かえた」 和 九 め 夏 冝 年 九〇 ると、 のでし に 漱 就 石 九 任

校史』(一九七三) には、 さらに九名の外国人教師の名前があげられ ってい

◆医学の外国人教師

の名がみえます。 医化学担当のL・ミハエリス(ドイツ)のほか、ドイツ語担当のF・K・A・ハーン(ドイツ) 大学には、 愛知医科大学の予科でドイツ語を教えたものであります。 九一五 61 て愛知医科大学の前身である愛知県立医学専門学校でも、 医学関係機関にも、 (大正四) 年三月まで教えていました。 たとえば、 ハーンは、これより前、まず前記のように第八高等学校で教壇にたち、つづ 一九二二(大正一一)年一〇月から一九二六(大正一五) 外国人教師がみられます。 一時帰国していましたが、ふたたび招 本学医学部の前身校である愛知県立愛知医科 九一〇 (明治四三) 年三月まで、 年八月 か n

病院に、 材養成のため オーストリア人のA・フォン・ローレツがやって来たのです。いずれも西洋医学の ツ系アメリカ人のT・H・ヨングハンスが、つづいて一八七六(明治九) もっとさかのぼり、 すでに外国人教師が招かれていたのでした。まず、一八七三(明治六) に招 かれたのでした。 明治の初年にも、 かれらこそ本学最初の外国 前身校である医学講習場と公立医学校、 人教師であります。 年五月になると、 年五月にドイ それ 実務的な人 に付設

名古屋大学は、

官制上、

一九三九

(昭和一四)年四月一日に創設された名古屋帝国大学に端

音楽、

政治、

法制、

外交、

軍

事、

金融

財政、

郵便、

交通、

電気通信、

産業、

開拓

など、

実に多

西洋医学を伝えた

「お雇

でした。

幕末から明治時代に、

わが国は

は西洋文化を導入するため、

先進国

から進んだ技術や学問

を体

た名古屋県仮医学校および仮病院にまでさか を発してい ころから、 ますが、 すでに外国人教師 数 々 の前史をもち、 :が就任していたことになります。 その のぼ 起 源 ります は 遠く一八七 から、 本学 __ (明 (i) を歴史が 治 四 年 はじまって間もな 八月 に開 設 いされ

2. 明治時代の「お雇い教師

▼近代化のためのお雇い外国→

 \exists ングハ ン ス (T. H. Yunghaus) とロ 1 レ ッ (Albreht von Roretz) は、 明 治 0 は じ め に

が 現 0 0 たい 外国 八六八 した人材を積 お 雇 のですが、ユネスコ東アジア文化研究センター Ĺλ 人を招きました。 外国 明 治元) 人二二九 極 的 年 に招 九名 ・から一八八九 へいしましたが、 お雇い外国 の名鑑 が収 (明治二二) 人 収録され と呼ばれているかれら 政府だけでなく、 ています。 年までに活躍 編 か 『資料御雇外国 n 5 地方も民間 した、 は、 0 正確 教 育 史実の確かな官・ |人』 (一九七五) な数は、 ...もそれに呼応して多数 医 学、 宗教、 容易に確定し 美術 公·私 には、

お

雇

17

教師」

と呼ばれています。

方面で活躍したのでした。 このうち、 主として学校教師として招へいされた外国人は、 狭義に

◆お雇い教師の任務

術を教えること、 雇 教師 には、 ②教師の筆頭に位置して学校の経営に関与すること、③日本の為政者 おもに四つの職務がありました。①教師として授業を担当し西洋の科学技

る調査研究をおこなうこと、でした。本務の余暇を活用した日本研究も、 注目されます。

にこたえて意見を申し立てること、④これらの職務を効果的にすすめるために、

その基礎とな

みられるだけに、 画にも描 らの活躍は本学だけにかぎらず、日本の各地にいくつかの足跡を残しています。 ヨングハンスとローレツも、このような職務を期待された「お雇い医学教師」 かれていますし、 どんな人物なのかとても興味深 小説に登場してもいます。 かり それ のがあります。 に、 かれらをとおして内外の交流 でした。かれ 錦絵新聞や絵

れた国際的な交流の一端を、 以下では、かれらの人物像を紹介し、 明らかにしてみたいと思います。 本学の歴史が始まったころに、 かれらをとおしてみら